

2019年

10月号No. 104

毎月6日発行



原水協通信 (茨城版)

原水爆禁止茨城県協議会 〒310-0912 茨城県水戸市見川5-127-281 茨城平和会館内
TEL/FAX 029-251-9919 e-mail antiatom-i@email.plala.or.jp 会長 加藤 岑生

原水協通信
頒価 ¥220/月

核兵器廃絶署名
47,464筆
('19.10/2)

ローマ法王フランシスコ氏が来日予定

今年11月23日から26日の日程で、東京、広島、長崎を訪問予定。ローマ法王の来日はヨハネ・パウロ二世以来38年ぶり。

法王は、ジョー・オダネル氏(米・写真家)撮影の写真「焼き場に立つ少年」の姿に打たれ、平和を一心に望み、核兵器廃絶の一日も早い実現を目指して全国の教会を訪問、教義を説く。



焼き場に立つ少年

これまで、核兵器の廃絶を訴える。広島と長崎から訪問の要請があった。法王自らが核兵器の廃絶の強いメッセージが出されることが期待されます。福島への訪問は見送られましたが、東京では東日本大震災の被害者との交流が調整されています。

オダネルさんは被爆後の広島、

長崎などで、私用カメラを使って約300枚を撮影。フィルムは封印していたが、1989年に反核の思いが込められた彫刻像を見たのを機に、「核戦争を繰り返さないことにつながるなら」と写真展を開いた。原爆正当化論が根強い米国で批判に耐え、2007年、8月9日に85歳で亡くなるまで各地で写真展を開き、戦争反対を訴えた。

本は「神様のファインダー 元米従軍カメラマンの遺産」。掲載されている被爆地の写真で、著名な「焼き場に立つ少年」について、幼子を火葬にする少年の様子をオダネルさんはこう記す。

「炎を食い入るように見つめる少年の唇に血がにじんでいる」「少年があまりきつくかみ締めているため、血は流れることもなくただ少年の下唇に赤くにじんでいました」

妻で米在住の坂井貴美子さん(56)が出版社の打診を受け、オダネルさんの遺志を尊重して、応じた。坂井さんは取材に対し、「人間の存在の原点を、占領者としてではなく同じ人間としてカメラに収めている」と表現。そして核廃絶へのメッセージとして、こう語った。「ただ『忘れない』ということが大切と思う」。

※ 9月22日現在、核兵器禁止条約批准国数は、32カ国です。あと18カ国で50カ国になり、90日後に発効します。核兵器に「悪魔の兵器」と烙印を押し、人類と共存できないとして、法的に全面禁止することが一条の光としてもうすぐ実現します。

日本政府は「唯一の被爆国」の名に恥じないためにまず率先して署名・批准することです。

拡大4役会議の開催します

- 日時：10月22日(火)13:30分から
- 場所：水戸文化交流プラザ101号会議室
- 議題 ①平和行進、世界大会のまとめ
②NY原水爆禁止世界大会 ③その他
- 参加要請者 4役、平和行進地域責任者、加盟団体
よろしくお願ひします

茨城県原水協学校を開催

9月7日、青少年会館に安田和也氏(都立第五福竜丸展示館主任学芸員)を迎え、「ビキニ被爆65年・戦後核開発と核廃絶運動の起点をたどる」の演題で、約一時間にわたって講演されました。

第五福竜丸(木造船)は今年で建造72年になり、産業遺産としても貴重です。当初はカツオ漁船として活躍しましたが、以後、部分改造してマグロ漁船に生まれ変わりました。

戦時中、全国の多くの漁船が軍に徴発され、そのため敗戦後の漁業の立て直しが急務となりました。アメリカに接収された日本に、プレスコード(報道管制)が敷かれ、同時に食糧難の時代にも関わらず遠洋漁業は厳しく制限されました。

1954年3月1日、広島型原爆の約1,000倍といわれる水爆・ブラボー(15メガトン)が爆発、第五福竜丸をはじめ900隻余の漁船が被爆しました。このときの被ばく線量は、2,000~3,000ミリ・シーベルト。急性症状でベーター線やけどを負い、半年後に無線帳・久保山愛吉さん死亡。東京杉並の主婦が立ち上がり、署名を集め政府を動かし、これを契機に運動は国際的に反核機運が高まりました。しかし、この年の12月末でマグロ検査は打ち切れられ、米国からはわずか200万ドルの見舞金で幕切れに。

世界中で2,063回もの核実験が行われ、大気圏実験は528回に。

第五福竜丸の教え

①ビキニ事件は、世界の人々に原水爆の恐ろしさを知らせた。さらに環境への放射線への影響と脅威を教えた。

②原水爆実験中止、核兵器廃絶の世論と運動が大きき力になった。未だその目標は到達されてはいない。しかし努力は続けられ、2017年に国連で核兵器禁止条約が採択された。これには被爆者と平和運動、市民の声が及ぼしたと言えよう。包括的核実験禁止、非核平和都市の広がり、非核地帯拡大、非核国と市民の動きなどを通してゆくことが不可欠です。

※ 東京にある第五福竜丸展示館を訪れて下さい。一般の方はもとより、とりわけ平和運動に携わる方々に、ぜひお勧めします。

国際核兵器廃絶宣伝行動
国連軍縮週間
1978年10.24~30

2019年県原水協学校開く

今月の草花

す。(柳)

私はハンマーでひとつずつ割っていましたが、最近ネットで道具を買いました。味は抜群。うどのゴマダレや、その他多方面に利用できます。



胡桃(くるみ)

北半球に15種ほど分布し、雌雄同株。日本全国の山地に自生するオニグルミは殻がかなり固く、中の実が複雑な形をしている。齧歯(げっし)類がであるリスは、前足で実をつかんで左右対称に割って食べるが、ネズミはわきから穴を開けて食べる。また、カラス(ハシボン)は空中から落として自動車にひかせるなど、工夫している。

2019年 関東甲信越ブロック原水協学校に参加して

茨城県原水協・澤島和栄

9月8、9日にかけて群馬県小野上温泉で関東甲信越ブロックの原水協学校が開かれました。26名が参加し、茨城県からは会長の加藤さん、副会長の又川さん、私（澤島）の3名が参加しました。日本原水協事務局次長の土田弥生さんが「核兵器禁止条約の展望と2020年NPT再検討会議に向けて」と題して講演し、質疑・討議、各都県からの報告、交流がありました。

土田さんの講演は先ず原水爆禁止2019年世界大会を総括し、2020年へ飛躍をつくるための世界の運動の結集があったこと、特に日韓市民の連帯の発展、国際青年リレーなどを紹介しました。日本政府に禁止条約を迫るための運動、共同の推進として沖縄、イージスアショア、野党共闘の市民連合との協力など。政府と市民社会の共同の強化としてはオーストリア政府など4カ国の参加、元首メッセージがあり、被爆証言・核兵器の非人道性を発信できたことをあげ、大会参加者が広島1,300人、長崎5,000人と報告。また、問題点として参加者数の長期低落傾向を脱し、いかに前進に転じる運動を作るかを指摘しました。

世界大会から学ぶこととして、人類の生存に影響が大きい2つの危険（大量破壊兵器、気候変動の緩和や適応の失敗）、核兵器使用危機の増大（14,000発の核兵器、極超音速ハイパーソニック（マッハ5.0以上）兵器、宇宙の軍事化、サイバー攻撃、INF条約の失効、新型核兵器の開発、イラン核合意から米国の離脱、インド・パキスタンの緊張激化、朝鮮半島非核化の停滞など）、他の分野との共同（環境など）、核兵器のない世界実現への可能性・展望（核兵器禁止条約とその調印・批准の前進＝革命的なこと、核兵器反対の市民社会と国家のユニークな共同）をあげました。

最後に、ニューヨーク世界大会の意義を語り、2020年へ前進を切り開く運動をいかにつくるかを提起（ヒバクシャ署名を中心に据える、核兵器の非人道性について広げる、あらゆる切り口から、あらゆる分野の運動との共同、日本政府へ禁止条約への調印・批准を迫る）し、2020年に向け、変化を起こす運動をつくろうと呼び掛けました。

各都県からの活動報告は、実例や経験など活発に熱のこもった議論が行われました。

★ 各地からの報告 ★



世界大会(第6分科会)に石岡から参加し、報告する増山さん

9月7日(土)、世界大会に初めて参加された石岡の増山みゆきさんは、第6分科会に出席し発言されました。これまで茨城の東海第二原発の廃炉への働きかけを中心的に行動してきましたが、茨城県も東電も、言を左右に老朽原発をなんとしても再稼働をしようと血道を上げています。危険極まるこうした状況を、多くの皆さんにも知っていただくため、熱弁されました。

龍ヶ崎原水協：世界大会報告会9/28



世界大会の報告会が、各地域で開かれています。来年はNPT、そしてニューヨークで開かれる初めての世界大会もあります。今から派遣する代表を決め、来年に備えましょう。

平和行進総括会議（水郡線コース）

'19/9/26 来年の責任団体を決めました。

6・9行動 水戸駅南口
2019.9/6



結果は、カンパ：1,500円、署名数24筆、参加者は8名でした。この日はなぜか外国の方が多く、署名をお願いするのに、戸惑うばかりでした。

ちひろカレンダー販売状況 '19.10/2

茨厚労：32本、友部平和の会：8本
加藤会長：6本 新婦人：392本
龍ヶ崎原水協：11本、会沢医師：3本
古川さん：4本
ちひろカレンダーによるご支援を、なおいっそうお願いします。

★核兵器禁止条約批准国数★

9月26日で署名79カ国、批准書提出国は、32カ国になりました。同条約の発効に必要な数は18カ国です。さらに批准を勧め、一日も早い発効を勝ち取り、核保有国を追いつめましょう。

日朝ピョンヤン宣言17周年を記念した集会に参加して

茨城県原水協・澤島和栄

「朝鮮半島と日本に非核・平和の確立を！ 日朝国交正常化交渉の再開を！9・17集会」が東京で開かれました。歴史研究者で日朝国交正常化交渉連絡会顧問の和田春樹さんが「安倍政権の対韓・対朝政策—その破局とわれわれの危機」と題して発言し、安倍首相の政治的原点が、1997年に中川昭一と組んで「日本の前途と歴史教育を考える若手議員の会」をつくり、事務局長になったところにあり、河野談話に反対し、慰安婦記述を教科書から除去し、韓国からの慰安婦問題告発に対抗する運動があったこと、そしてその後の朝鮮半島をめぐる問題を詳しく解説し、早急の日朝国交樹立が全ての問題の平和的解決の条件であると力説しました。次に朝鮮大学のリ・ビョンフィさんが「朝鮮民主主義人民共和国側から見た朝鮮半島情勢」と題して発言し、北朝鮮の一貫した平和を希求する対外政策と対応について話され、朝米首脳会談の成果をみて安倍首相が「無条件で」日朝首脳会談を提案しているが、見え透いた提案であり北朝鮮政府はまともに受け取らないこと、その証拠に朝鮮学校に対する補助金打ち切り問題があることをあげました。最後に韓国からのゲストでアジアの平和と歴史教育連帯・国際協力委員長のカン・ヘジョンさんが「日韓関係の現状から考える朝鮮半島の平和と日本」と題して発言し、改憲・軍事化のため外部の敵が必要な安倍政権の性格に市民の注目が集中していることなどを話されました。

集会の最後に、日本の加害の歴史を清算し諸懸案を解決して国交正常化を目指すことを確認した日朝ピョンヤン宣言から17年目となります。「日本側は、過去の植民地支配によって、朝鮮の人びとに多大の損害と苦痛を与えたという歴史の事実を謙虚に受け止め、痛切な反省と心からのお詫びの気持ちを表明しました。私たちは今日、あらためて加害の歴史の清算を基礎に日朝国交正常化を速やかに実現すべきことを訴えるものです。朝鮮半島における平和への流れを確かなものに…、安倍政権は朝鮮半島の平和への動きを妨害するな…私たちは、日本政府が、南北・米朝首脳会談で確認された朝鮮半島の平和プロセスに積極的役割を果たし、宣言に基づき、不幸な過去の清算を基礎とした国交正常化に向け交渉を速やかに再開することを強く要求します。」の「9・17日朝ピョンヤン宣言17周年集会決議」を採択して閉幕しました。

私は集会後に朝鮮大学のリ・ビョンフィさんと面会し、北朝鮮へのスタディーツアーの計画を提案しました。尚、集会には380人が参加し、立ち見者が多数出ている、に対する関心の高さがうかがえたことを報告しておきます。

編集後記

協校の主催者ですが、県内の行事が重なり、参加者が少なかつた。原水協運動の原点の話、もつと多くの人に聞いて欲しかった。来年は被爆75年。またNPT再検討会議、そして、初めてニューヨークで原水爆禁止世界大会が開かれます。この大会は日本が進めてきた原水協運動の「核戦争阻止」「核兵器廃絶・禁止」「被爆者援護連帯」の3目標を反映したもので、今からこの功利的な活動と成果を反映した代表派遣に取り組みました。9月からは強力な支援が現れました。東海村に住まう。澤島さん、加藤さん、又川さん、私（柳）が参加しました。